

No Whistle Try からの
炎のスクラム



2024年3月期第2四半期 決算説明資料

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社
東証プライム 6699
2023年12月

I . 2024年3月期第2四半期 決算実績

II . 2024年3月期 通期業績予想

III. 社長メッセージ 中長期経営計画【炎のスクラム】

Appendix. 会社概要・事業内容

A person in a dark suit is running through a field of fire. The fire is bright orange and yellow, with flames rising from the ground. The person is in the center of the frame, moving towards the right. The background is dark and smoky.

I . 2024年 3 月期第2四半期 決算実績

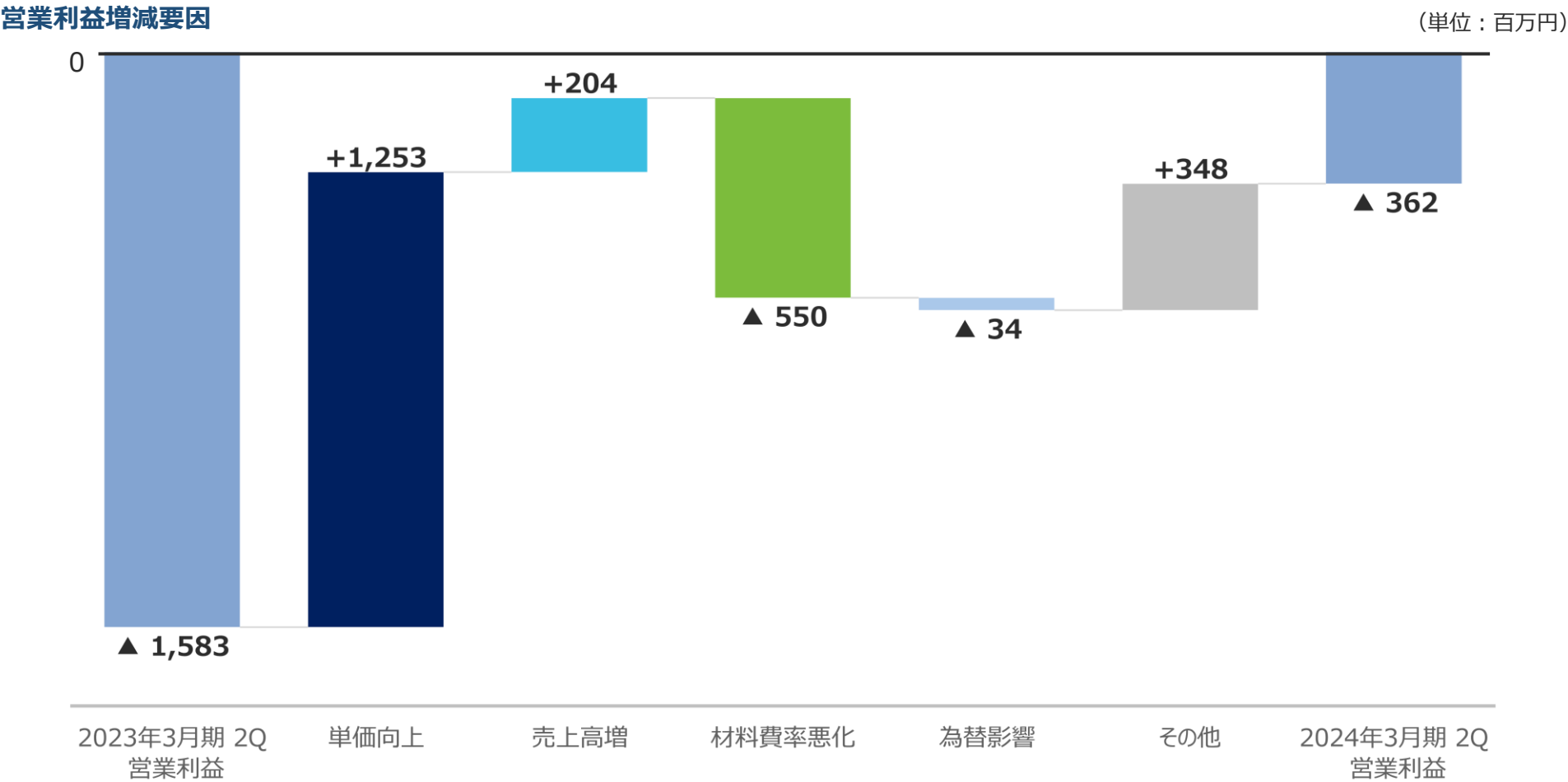
2024年3月期 第2四半期 決算概要（P/L）

- 自動車機器事業：一部販売終息により減収するも、単価向上及び原価低減活動の取り組みにより増益
- エネルギーソリューション事業：部材調達難による生産停滞が解消したことを受け増収増益
- 電子機器事業：グローバルでの販売増により大きく増収するも、材料費率悪化を受け利益は横ばい
- その他のトピック：円安の影響を受け為替差益10.6億円を計上（前期は15.8億円）
市場回収措置（リコール）に関する製品補償引当金繰入額1.8億円を追加計上
増益に伴う税前利益増により法人税等4.6億円を計上（前期は3.6億円）

(百万円)	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期			
	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	増減額	増減率(%)
売上高	43,263	100.0%	44,978	100.0%	+1,714	+4.0%
自動車機器	16,376	37.9%	15,672	34.8%	▲703	▲4.3%
エネルギーソリューション	10,308	23.8%	10,752	23.9%	+444	+4.3%
電子機器	16,578	38.3%	17,939	39.9%	+1,360	+8.2%
その他事業	-	-	613	1.4%	+613	-
営業利益	▲1,583	▲3.7%	▲362	▲0.8%	+1,220	-
自動車機器	▲1,689	▲3.9%	▲682	▲1.5%	+1,007	-
エネルギーソリューション	902	2.1%	1,039	2.3%	+136	+15.2%
電子機器	390	0.9%	398	0.9%	+8	+2.2%
その他事業	-	-	▲50	▲0.1%	▲50	-
共通	▲1,186	▲2.7%	▲1,068	▲2.4%	+118	-
経常利益	▲220	▲0.5%	494	1.1%	+715	-
親会社株主に帰属する当期純利益	▲580	▲1.3%	▲188	▲0.4%	+391	-
R O E	▲5.5%		▲1.7%		+3.8pt	
営業利益率	▲3.7%		▲0.8%		+2.9pt	

営業利益増減要因分析

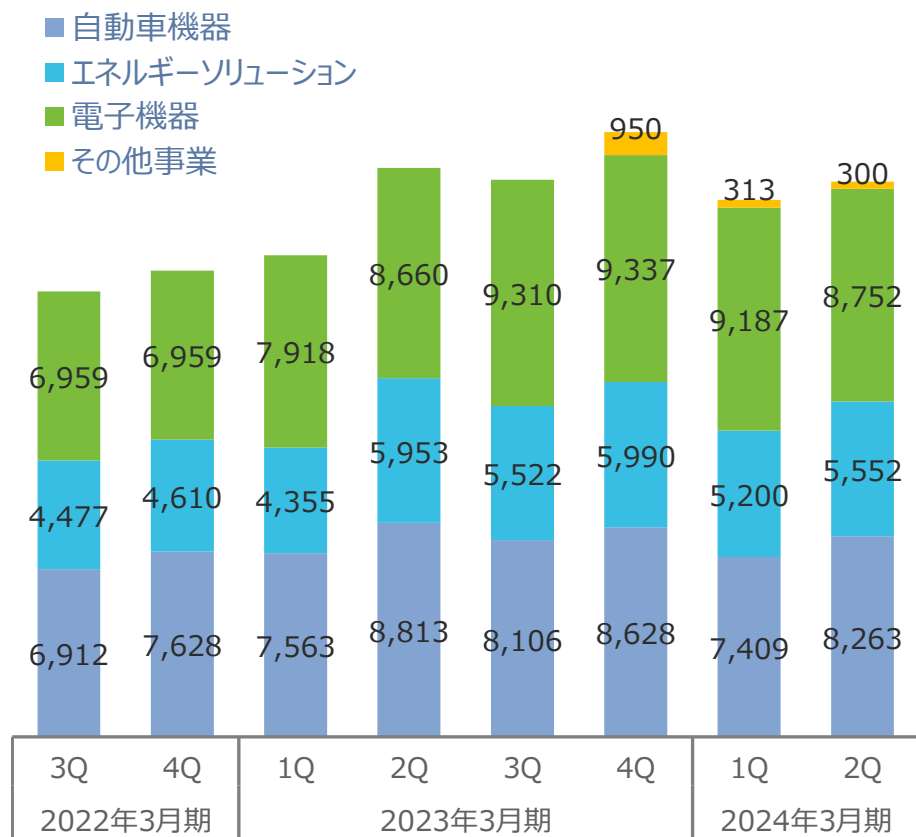
- 売上高は点火コイルの単価向上及び住宅向け蓄電システムの販売回復、欧州でのヒートポンプ関連部品の販売増等が寄与
- 調達コスト高やセールスミックス等による材料費率悪化を受けるも、営業利益は12.2億円の改善



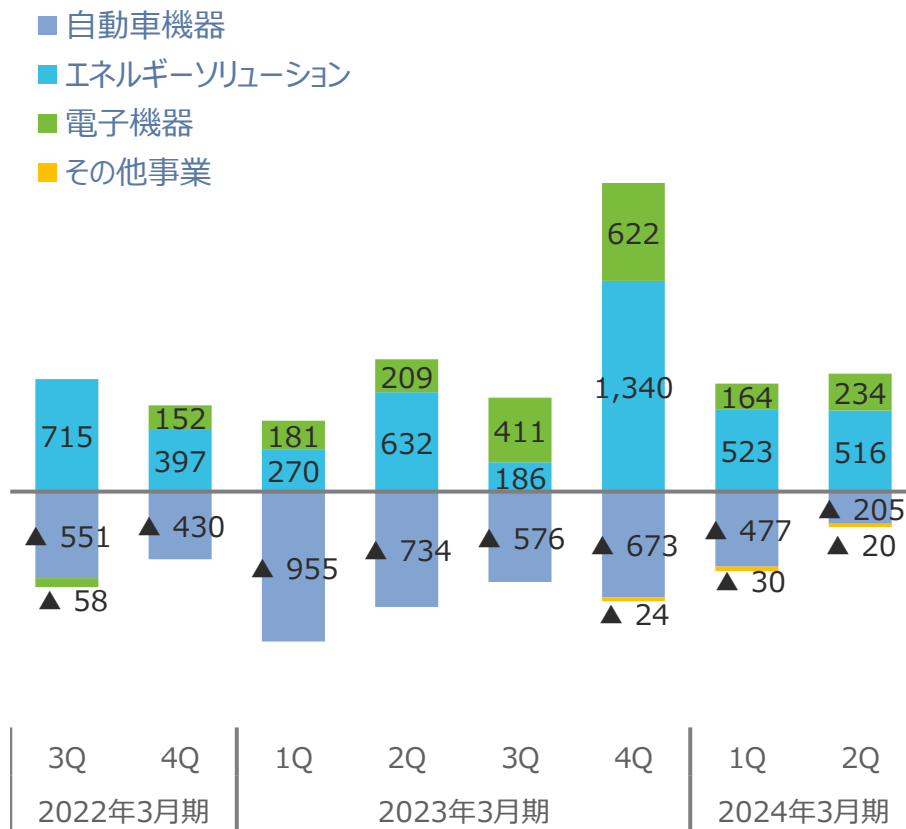
セグメント別四半期業績推移

- 自動車機器事業: 単価向上及び原価低減活動の取り組み等により、原価率は改善傾向
- エネルギーソリューション事業: 前々期から続いた半導体不足による生産停滞は解消され、更なるお客様信頼回復に向け活動中
- 電子機器事業: お客様在庫調整等により前4Qをピークに販売低迷及び材料費率悪化により利益率悪化

セグメント売上 (四半期・百万円)



セグメント利益 (四半期・百万円)



2024年3月期 第2四半期 決算概要 (B/S)

- 棚卸資産は8.0億円増加のうち、円安影響を受け9.8億円増加、実質1.8億円減少
- 自動車機器事業の米国主要お客様向け増産対応及びタイ王国での生産拠点集約に対する投資により固定資産が増加
- 設備投資資金、運転資金確保を目的とした新規借入で有利子負債が増加

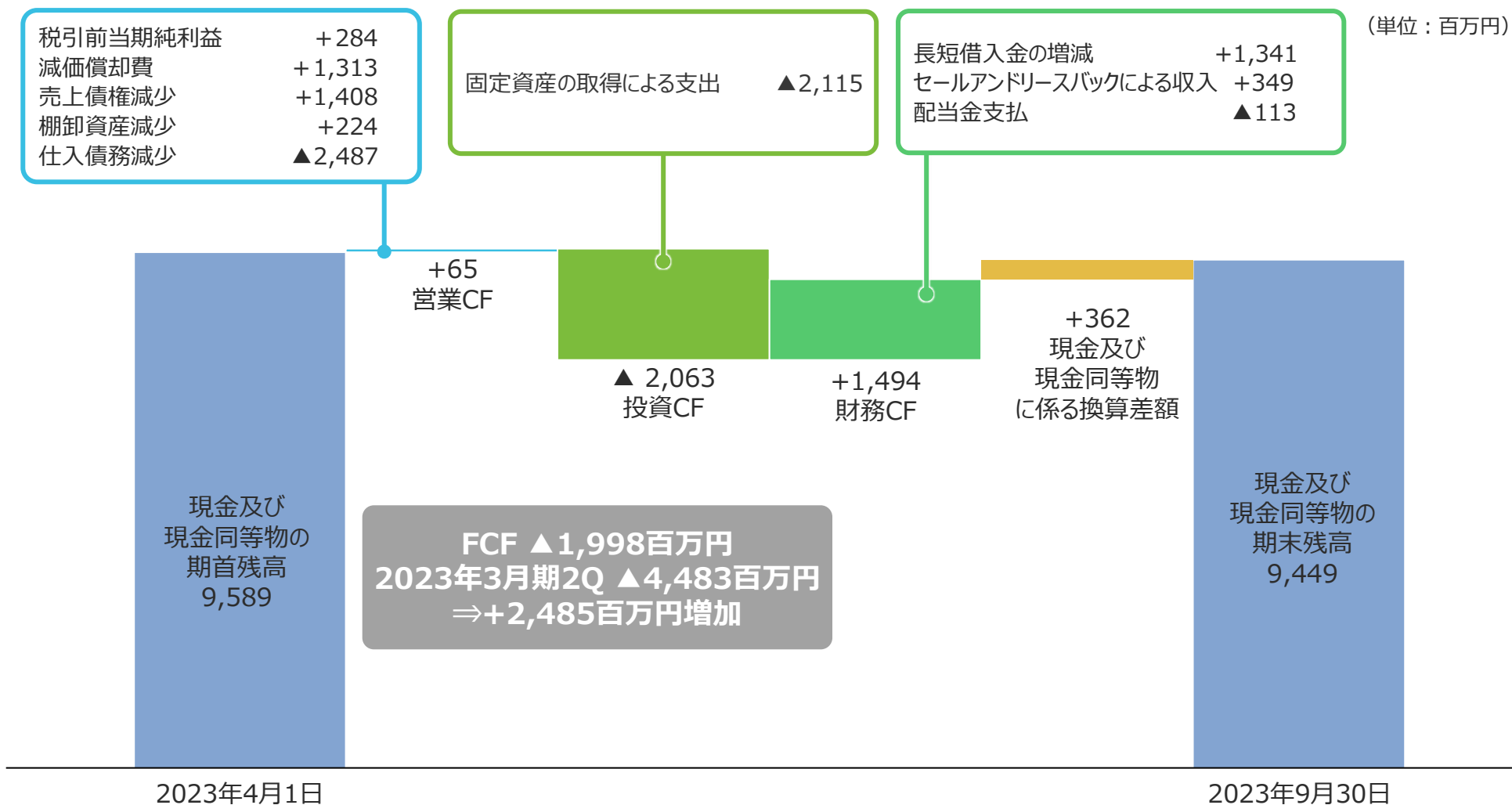
(百万円)	前期 2023年3月期 第4四半期	当期 2024年3月期 第2四半期	前期末比
	実績	実績	増減額
流動資産	52,074	52,729	+655
現預金	9,640	9,543	▲97
受取手形・売掛金	14,823	14,036	▲787
棚卸資産*	22,429	23,229	+800
固定資産	26,652	28,756	+2,104
有形固定資産	18,516	20,101	+1,585
総資産	78,727	81,486	+2,759
支払手形・買掛金	9,928	9,529	▲399
電子記録債務	6,994	5,297	▲1,697
有利子負債**	40,617	42,825	+2,208
負債	67,823	69,627	+1,804
自己資本	10,779	11,726	+947
自己資本比率	13.7%	14.4%	+0.7pt
純資産	10,903	11,858	+955

*棚卸資産 = 商品及び製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品

**有利子負債=短期借入金+1年以内償還社債+1年以内返済長期借入金+社債+長期借入金+リース債務

連結CFの状況

- フリー・キャッシュフローは、2023年3月期2Qの▲ 44.8億円から▲ 19.9億円に増加（+24.8億円）

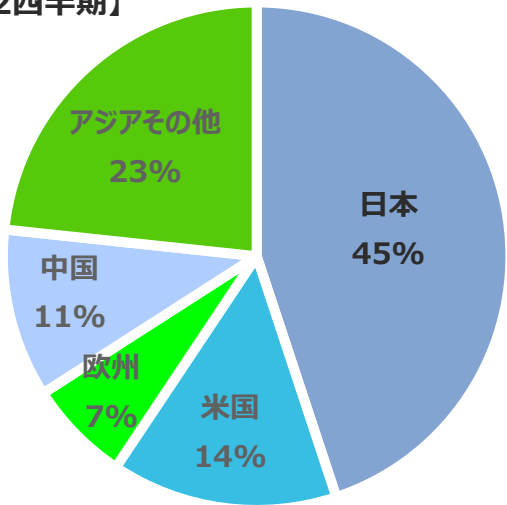


地域別決算概要

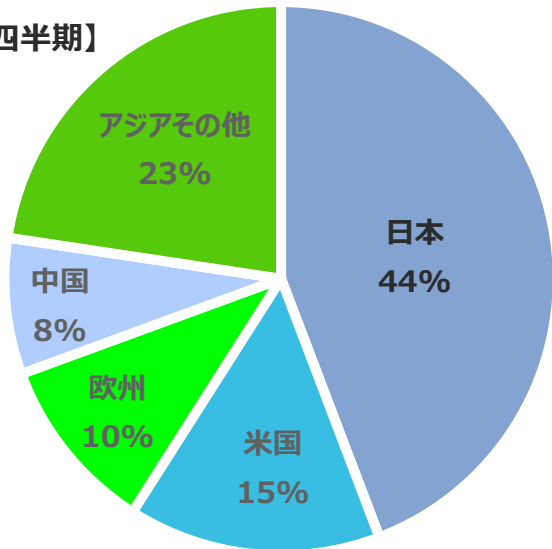
- 日本はエネルギーソリューション事業の住宅向け蓄電システム生産回復により増収
- 米国は自動車機器事業の主要お客様の新機種立上げ等点火コイル販売増
- 欧州はヒートポンプ需要の高まりを受け電子機器事業の関連部品販売増

地域別売上高（%）

【2023年3月期 第2四半期】



【2024年3月期 第2四半期】



地域別実績

(百万円)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期		
	実績	実績	実績	実績	増減額	増減率
日本	16,625	20,334	19,431	19,888	+457	+2.4%
米国	4,183	4,320	6,252	6,660	+408	+6.5%
欧州	2,952	2,685	2,835	4,669	+1,834	+64.7%
中国	1,868	3,490	4,657	3,584	▲1,073	▲23.0%
アジアその他	4,630	7,895	10,087	10,174	+87	+0.9%



II. 2024年3月期 通期業績予想

2024年3月期 第2四半期実績（期初予想vs第2四半期実績）

- 自動車機器の一部お客様需要減、エネルギーソリューションのお客様信頼回復に向け足場を固めつつあるも販売計画の未達、電子機器の販売が予想を下回ったこと及び材料費率悪化の影響等を受け、営業利益は期初予想を下回った。

(百万円)	2024年3月期 期初予想		2024年3月期 実績			
	第2四半期期初予想	構成比(%)	第2四半期実績	構成比(%)	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率(%)
売上高	47,900	100.0%	44,978	100.0%	▲2,921	▲6.1%
自動車機器	15,600	32.6%	15,672	34.8%	+72	+0.5%
エネルギーソリューション	12,000	25.1%	10,752	23.9%	▲1,247	▲10.4%
電子機器	19,600	40.9%	17,939	39.9%	▲1,660	▲8.5%
その他事業	700	1.5%	613	1.4%	▲86	▲12.4%
営業利益	100	0.2%	▲362	▲0.8%	▲462	-
自動車機器	▲900	▲1.9%	▲682	▲1.5%	+217	-
エネルギーソリューション	1,100	2.3%	1,039	2.3%	▲60	▲5.5%
電子機器	1,000	2.1%	398	0.9%	▲601	▲60.1%
その他事業	0	0.0%	▲50	▲0.1%	▲50	-
共通	▲1,100	▲2.3%	▲1,068	▲2.4%	+31	-
経常利益	▲120	▲0.3%	494	1.1%	+614	-
当期純利益	▲220	▲0.5%	▲188	▲0.4%	+31	-
ROE	▲ 2.2%		▲1.7%		+0.4pt	
営業利益率	0.2%		▲0.8%		▲1.0pt	
設備投資	3,450		2,465		▲984	▲28.5%
研究開発費	1,800		1,374		▲425	▲23.7%
減価償却費	1,530		1,313		▲216	▲14.1%

2024年3月期 通期業績予想（期初予想vs修正予想）

- 電子機器の主要なお客様の需要減、エネルギーソリューションの販売回復の遅れにより売上高の減少が予想されることに加え、材料費率悪化等に営業利益が期初予想を大きく下回る見込みとなるため予想を修正。

(百万円)	2024年3月期 期初予想		2024年3月期 修正予想			
	通期期初予想	構成比(%)	通期予想 (11月14日時点)	構成比(%)	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率(%)
売上高	98,000	100.0%	93,000	100.0%	▲5,000	▲5.1%
自動車機器	32,000	32.7%	33,300	35.8%	+1,300	+4.1%
エネルギーソリューション	25,000	25.5%	23,500	25.3%	▲1,500	▲6.0%
電子機器	39,200	40.0%	34,300	36.9%	▲4,900	▲12.5%
その他事業	1,800	1.8%	1,900	2.0%	+100	+5.6%
営業利益	850	0.9%	0	0.0%	▲850	▲100.0%
自動車機器	▲1,500	▲1.5%	▲1,100	▲1.2%	+400	-
エネルギーソリューション	2,700	2.8%	2,450	2.6%	▲250	▲9.3%
電子機器	1,700	1.7%	650	0.7%	▲1,050	▲61.8%
その他事業	150	0.2%	100	0.1%	▲50	▲33.3%
共通	▲2,200	▲2.2%	▲2,100	▲2.3%	+100	-
経常利益	450	0.5%	600	0.6%	+150	+33.3%
当期純利益	210	0.2%	▲160	▲0.2%	▲370	-
ROE	2.0%		▲1.6%		▲3.6pt	
営業利益率	0.9%		0.0%		▲0.9pt	
設備投資	4,700		3,715		▲984	▲21.0%
研究開発費	3,600		3,174		▲425	▲11.8%
減価償却費	3,200		2,983		▲216	▲6.8%

配当に関して（11月14日適時開示）



各 位

2023 年 11 月 14 日

会社名 ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 兼グループ CEO 小野 有理
(コード番号 6699 東証プライム市場)
問合せ先 専務執行役員 CFO 徳原 英真
(TEL 06-6302-8211)

営業外収益、特別損失の計上、2024年3月期累計期間の業績予想と実績値との差異、通期業績予想の修正、剰余金の配当・期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2024年3月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想と実績値との差異、2024年3月期の通期連結業績予想の修正、及び特別損失の計上、並びに2023年9月30日を基準日とする剰余金の配当（中間配当無配）・期末配当予想の修正（未定）について決議いたしました。

また、2024年3月期第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年9月30日）において、営業外収益（為替差益）を計上いたしましたので、併せて下記のとおりお知らせいたします。

5. 剰余金の配当・期末配当予想の修正について

（1）剰余金の配当（中間配当無配）の内容

	決定額	直近の配当予想 (2023年5月12日公表)	前期実績 (2022年9月期)
基準日	2023年9月30日	同左	2022年9月30日
1株当たり配当金	0円00銭	12円50銭	12円50銭
配当金総額	—	—	101百万円
効力発生日	—	—	2022年12月5日
配当原資	—	—	利益剰余金

（2）期末配当予想の修正（未定）

1株当たり配当金			
基準日	第2四半期末	期末	合計
前回予想	12円50銭	12円50銭	25円00銭
今回修正予想	—	未定	未定
当期実績	0円00銭		
前期実績（2023年3月期）	12円50銭	12円50銭	25円00銭

（3）理由

当社は、配当については、長期的視点に立って企業体質の一層の強化及び将来の成長分野への投資のために必要な内部留保を確保しながら、安定配当の維持と向上を図るため、連結当期純利益に対する2025年における配当性向25%以上を目標とし、利益還元を実施したいと考えております。

しかしながら、当期の中間配当につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績、及び前期中間配当における会社法第465条第1項（本文）の抵触経緯（2023年8月28日付「（開示事項の経過）外部調査委員会による調査報告書の受領と当社見解の件」で開示）を踏まえて、「無配」とさせていただくことを決議いたしました。

株主の皆様には深くお詫び申し上げるとともに、可能な限り早期に復配できるよう努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、2024年3月期の期末配当につきましては現時点で「未定」に変更させていただきます。ただし、下期の業績回復に向け、引き続き挙社一致で取り組み、その上で動向を見極めつつ慎重に検討し、配当予想が可能となった時点で速やかに公表いたします。



Ⅲ. 社長メッセージ 中長期経営計画【炎のスクラム】



中長期経営計画 炎のスクラム

2023年10月 – 2028年3月



中長期経営計画【炎のスクラム】 策定主旨及び宣言

【炎のスクラム】 策定趣旨及び宣言



【DSA2021再点火反転攻勢版】の炎を潰えさせぬまま、我が社は、過去に例無く他に類見ぬ上場企業二社同時再生+1、其之最終局面に直面しています。

苦闘しています。間も無くのはずの夜明け、其之直前の闇を駆け抜けるに、息が上がり、足ももつれんばかりです。夜明け前の闇が最も暗い事は自明の理、或いは試合終了直前、逆転の許されぬ自陣スクラムが筆舌に尽くし難く苦しい事も言うを待たず、で有ります。

されど、足掛け八年闘い抜いてきた「類い希なる強靱な意志と意欲」は更に烈しく炎立つ。再生端緒驚くほど鮮やかに天空に描いたように、此之夜明け前の闇を駆け抜けた時にこそ我が社と我が社の傍楽仲間達が未来に燦然と耀く、左様確信しています。ゆえに「Whatever it takes」、歯を食い縛り、刀を振り回し、一步でも一寸でも前に出る、連戦猛進しています。

此処に、グローバルサプライチェーン崩壊の難局を斬り抜け、真の公器を目指し「サステナブル＝持続可能」な成長を描く新たなビジョン【車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ】を掲げ、新中長期経営計画【炎のスクラム】を組上げます。

代表取締役社長 CEO 兼 グループCEO

小野有理

新ビジョン



車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ

2023年8月8日制定
代表取締役社長 CEO 兼 グループCEO

小野有理

中長期経営計画 初年度策定社長方針



品質保証更なる厚肉化、販売網構築

- ・ 開発初期からのお客様要求品質追求、つくりやすさ、加えて、買いやすさのつくりこみ継続、形式知化
- ・ ES（エネルギーソリューション事業）取引販売商社様信頼関係強化及び共同販売戦線

社長総点検全拠点実施、不良撲滅

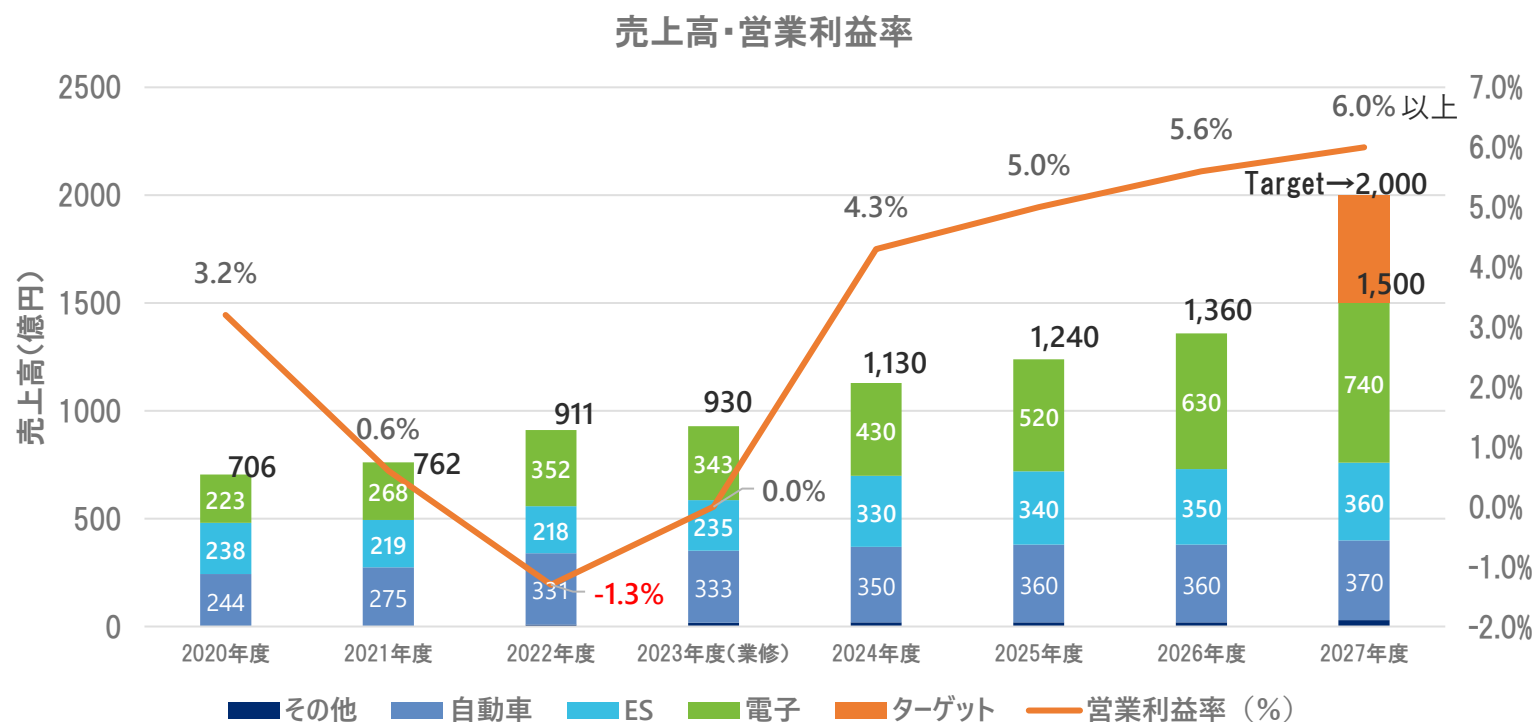
- ・ 社長総点検を受けての【Factory Match】展開継続
- ・ 次世代燃料点火燃焼技術開発【Project A】発表推進

グローバルサプライチェーン脱構築

- ・ 堅固為る紐帯に依る【All Diamonds 経済圏】構築
- ・ 売上高2,000億円を駆け抜ける為の事業並びに地域を縦横無尽に網羅するサプライチェーン構想及び構築

中長期経営計画【炎のスクラム】 目標 *2023/12 アップデート版

	2023年3月期 実績	2024年3月期予想	2028年3月期 目標
売上高	911 億円	930 億円	ターゲット 2,000 億円 コミットメント 1,500 億円
営業利益率	▲ 1.3 %	0 %	6 %以上
R O E	▲ 10 %	▲ 1.6 %	20 %以上



中長期経営計画【炎のスクラム】 セグメント別目標 *2023/12 アップデート版

自動車機器事業

お客様要求と地球環境の要請に寄り添う技術開発を背景とした市場占有率向上と収益構造改革

エネルギーソリューション事業

お客様との信頼関係に基づき、共同販売戦線を構築し、社会インフラの確立を目指した製品開発を促進

電子機器事業

お客様のグローバル展開への追従及び寄与により、国内エアコン用リアクター市場シェア 1 位/主要お客様内占有率トップ 3 を獲得

自動車機器

点火コイルシェア世界No.1

収益構造改革

車載電装品・電子部品のお客様採用戦略遂行

エネルギーソリューション

住宅用蓄電システム
シェア拡大

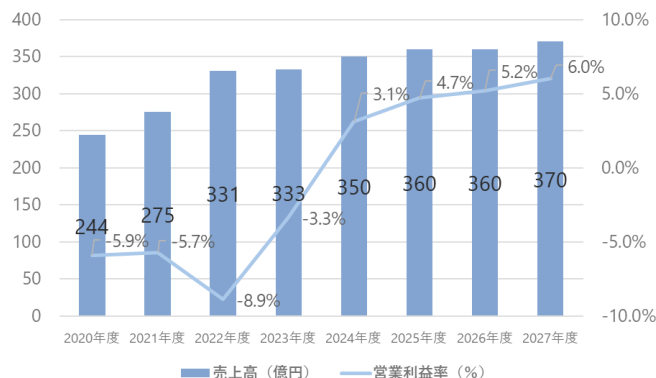
産業用パワコンの復活

電子機器

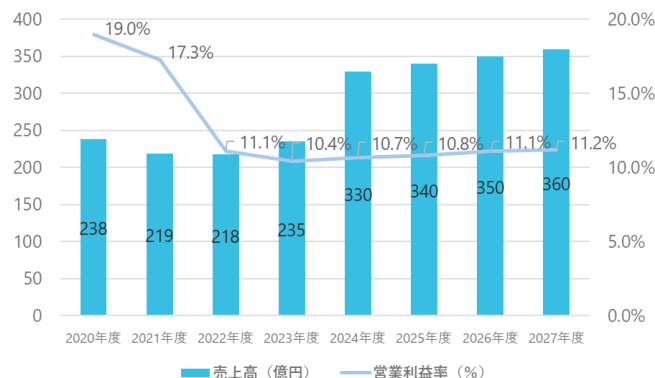
エアコントップメーカー
シェア拡大

リアクター・トランスの拡販

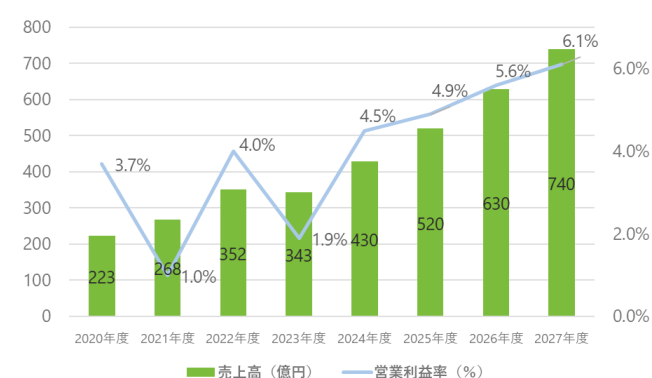
自動車機器事業 売上高・営業利益率



エネルギーソリューション事業 売上高・営業利益率



電子機器事業 売上高・営業利益率



中長期経営計画【炎のスクラム】 自動車機器事業

自動車機器事業



事業戦略

点火コイル世界シェア No.1

- お客様要求と地球環境の要請に寄り添う技術開発を背景とした個別お客様接点創造によるお客様口座堅持及び市場占有率向上

収益構造改革

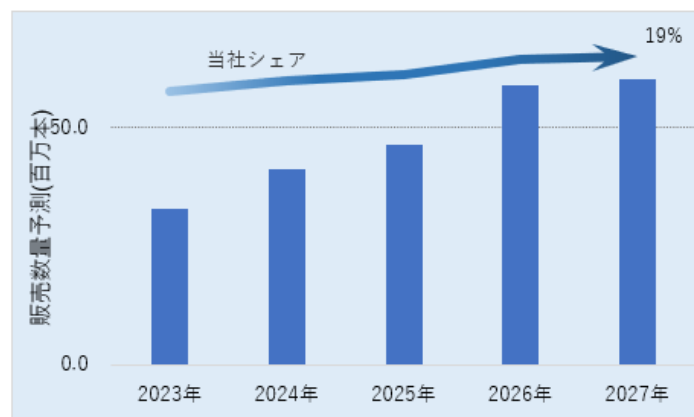
- 環境整備、改善による原価低減
- 生産拠点集約
- All Diamondsと歩む、グローバルサプライチェーン脱構築

車載電装品・電子部品のお客様採用戦略遂行

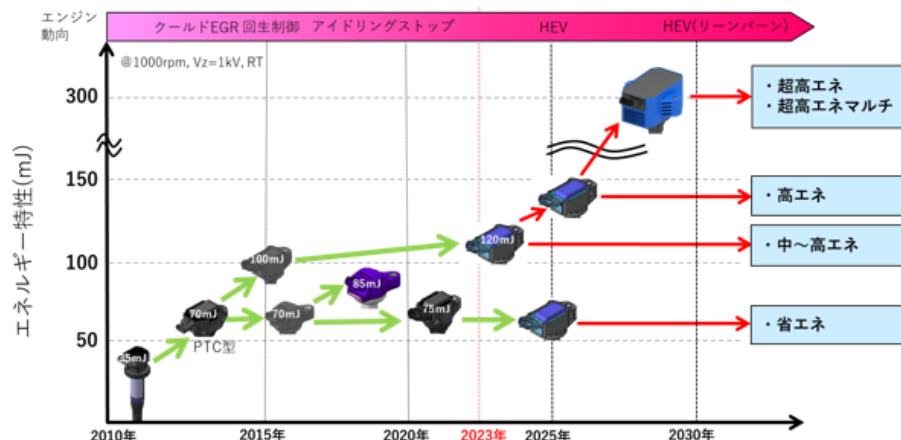
- クロスチャネル戦略継続
- V2X技術開発によるお客様の地球環境適合戦略及び技術への追従
- 社内技術叩き起こしによるトランス・リアクターの車載製品開発及び協業模索

アンモニア燃焼技術開発促進及び協業模索

当社点火コイル販売数量予測



点火コイル技術開発ロードマップ



中長期経営計画【炎のスクラム】 エネルギーソリューション事業

エネルギーソリューション事業



事業戦略

幾つもの地域占有率一番獲得

- 商社様並びに販売代理店様との信頼関係に基づき、新たな販売網、及び、共同販売戦線を構築

社会インフラとしてのシステムの確立

- インターネット接続率向上
- クラウドシステム強化
- 充放電最適化制御
- 電力取引、需給調整市場との連携

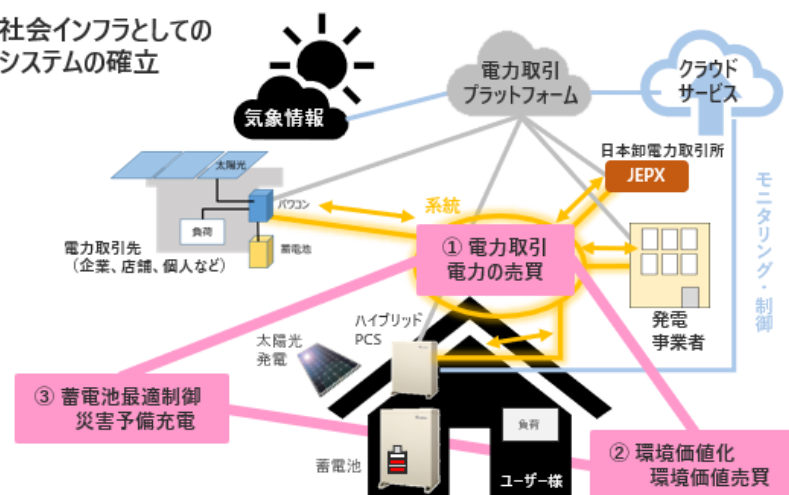
住宅向けシステムのシェア拡大（蓄電システム、V2H）

- 卒FITユーザーへの遡及継続
- EV関連補助金主導の市場拡大に追随した製品展開
- 太陽光発電の設置義務化対応の小容量・低価格パワコンシステム開発

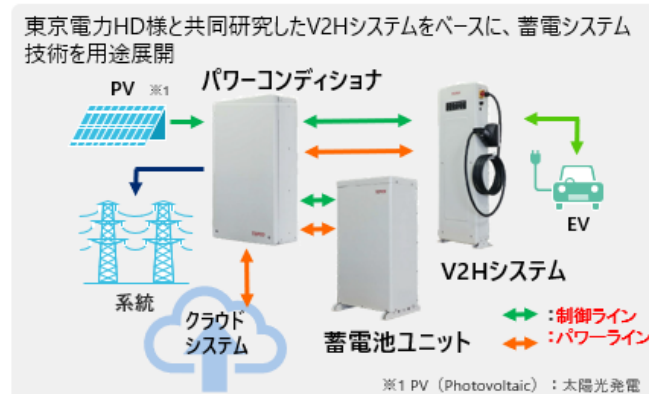
産業用パワコンの復活

- FITから自家消費、VPPに対応できる製品開発
- リプレース需要に対応した製品開発

社会インフラとしてのシステムの確立



「車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ」を体現化する次世代蓄電システム製品の開発



電子機器事業



事業戦略

国内インバータエアコン用リアクター市場シェア 1 位/
主要お客様内占有率トップ 3 獲得

- 省電力技術に対応した基板の供給を進めると共に、電力変換を行う為のリアクター・トランスの売上拡大
- 当社独自技術を活用した、代替エネルギーと家電を調和させた技術提案及び事業規模拡大
- 信頼を頂ける品質、生産、調達のさらなる高付加価値を創出し実現することにより安全・安心・安定の提供拡大

主要お客様のグローバル展開への追従及び寄与

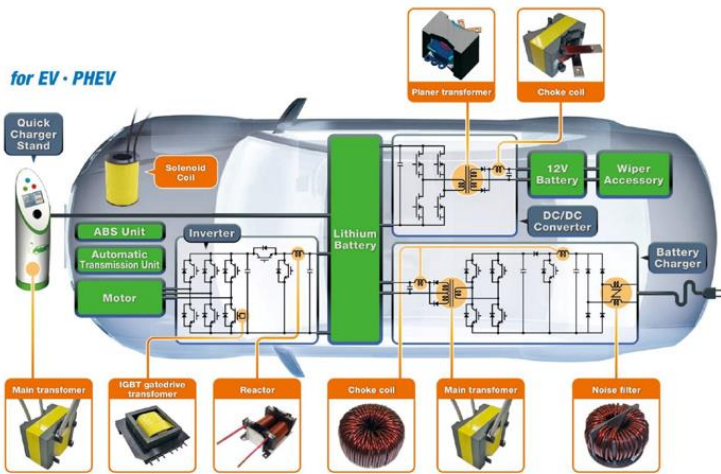
- 最寄地生産体制の強化を進め、当社国内・海外拠点活用による売上拡大
- お客様ニーズに対応した先行開発、要素開発からの参入による技術ポジションの確立

車載向けリアクター・トランスの拡販

- 世界的に次世代電動車開発が加速する中、車載電装品及び電子部品の需要拡大に追従・貢献し、売上拡大

戦略ロードマップ

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
グローバル対応	北米におけるリアクター・トランス製品開発		海外拠点エンジニアと共同設計 ⇒PCBAの現地設計 & 海外拠点製造		
	インド現生化による設計アプローチ				
技術提案型受注	エアコン用リアクター開発の入り込み		先行開発、要素開発の参入による技術ポジションの確立		
	再生可能エネルギー活用でのビジネス & 技術提案				
未対応製品分野へ挑戦	車載用のリアクター・トランスの製品開発				
	「SiC」 「GaN」 INVモジュール開発				



中長期経営計画【炎のスクラム】 あとがきに替えて

【炎のスクラム】のあとがきに替えて



此之新たな中長期経営計画【炎のスクラム】を、約一週間の北米出張からの帰国の途上、機上にて策定、執筆しています。文字通り機上の空論ですが机上の空論に非ず、必ずや遂行する所存です。

昨夏から海外渡航が可能に為り、既存御取引の継続御礼及び新規受注を企図してのお客様訪問が漸く叶いました。そして、待ちに待った社長総点検に由る傍楽仲間達との再会。改めて、人と人が共に在ることの大切さ、有難さが身心に深く沁み入ります。

逢えない時間を、我が社のていたらくも有り、きっと心を戸惑わせながらもWEBや電話やメールを駆使して一緒に乗り越えてくださったお客様、御仕入先様方々に衷心より感謝申し上げます。待ちに待ってくれていた世界中の傍楽仲間達におおきに！であります。無論、惨禍の間隙を縫い慎重に丁寧に苦慮と配慮を幾重にも重ねてでも面談を実施して、此之困難之季を更に近い処で一緒に闘って下された金融機関様、All Diamonds企業様方々にも、今一度重ねて衷心より御礼申し上げます。誠に以て有難う御座います。旅の終わり、旅愁のなか、万感胸に迫る想いです。

中長期経営計画【炎のスクラム】 あとがきに替えて

【炎のスクラム】のあとがきに替えて



さて、2017年に投資を決断し、足掛け7年取組んできた【Project A=アンモニア燃焼技術】は現在、更なる研究の深化と共に、既報の通り世界初の技術を具現化すべく、チャンピオン試作品を今年度末、2024年3月の完成を目指して我が社のむくつけきエンジニア達が鋭意作成中です。

また、既存の事業同様【Project A=アンモニア燃焼技術】をどまんなかに据えた【車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ】新たな闘いに於いても、既に連携、御協力賜りております企業様や研究機関様に加えて、日本を手始めに、世界の各地で焰(ほむら)立つ堅牢な【炎のスクラム】を組みたい、左様に考えています。

いつの日か、世界中の公道を地球環境に資する我が社の技術を搭載した自動車が走る前に、田畑や海上で御役に立てないか、少しでも早く人々と地球の未来に役立てないか、此之、過去に例無く他に類見ぬ上場企業二社同時再生+1の完遂を足腰に、確かな収益構造を有した筋肉質の会社へと生まれ変わるのは勿論のこと、世界中の人々から在って佳かった、左様仰って頂ける公器へと昇華すべく、少しづつ少しづつ漸進して参ります。

中長期経営計画【炎のスクラム】 あとがきに替えて

【炎のスクラム】のあとがきに替えて



また、我が社が【Project A】に次いで進める【Free as a Bird】即ちマイクログリッドは、【車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ】大いなる試みであると同時に、日本に於ける「ものづくり」の力の源泉である地方の復活、其之底力を喚起する取組みでもあります。今少し先にはなりますが、此之マイクログリッドを追求するということは、其之町で雇用が生まれるということ。鳥取での雇用を取り戻すだけでなく、先ず以て我が社の工場が在る新潟三条、栃木大田原、秋田横手にて同様に産業創出延いては雇用創出に取組み、此之国の地方の底力を呼び醒ましたい、斯様に考えています。極度の円安、物価高、そして何れの人口減を想えば、「夫れ大事を済すは必ず人を以て本と為す」、我が社の【人々の再生物語】が更に多くの人々の心温まり勇気湧く豊かな物語につながることを、衷心より願って止みません。

今後も当グループは、中長期経営計画【炎のスクラム】に掲げた新ビジョン【車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ】に基づき、公器としてお客様の発展に寄与し社会の豊かさに貢献するべく、挙社一致で連戦猛進して参ります。

代表取締役社長 CEO 兼 グループCEO

小野有理



Appendix. 会社概要・事業内容

果の高い製品の
指す

- 取締役会直下に「サステナビリティ委員会」を新設（2023年10月）

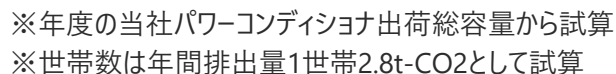
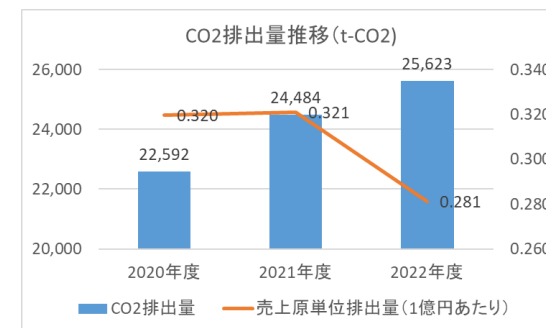
- [illegible]

製造に係るCO2排出量（Scope1& 2）

- RE100**
CLIMATE GROUP
-  **CDP**

2023年3月31日現在

- グループ事業拡大においても省エネルギーの
追及にてCO2排出量の削減に取り組む
※2022年度よりダイヤクラフト(株)を含む



会社概要

- 「ものづくりを通じてお客様の発展に寄与し、信頼を積み重ね、社会の豊かさに貢献する」という経営理念のもと、エネルギーの利活用
に長じた持続可能な社会の実現に貢献する「ものづくり企業」

会社名	ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社 (DIAMOND ELECTRIC HOLDINGS Co., Ltd.)	
本社	大阪府大阪市淀川区塚本1丁目15番27号	
設立	2018年10月1日	
事業内容	自動車機器事業、電子制御機器事業及び附帯関連する一切の事業を行う子会社等の経営管理 及びそれに附帯又は関連する業務	
代表者	代表取締役社長 小野 有理	
売上高	91,106百万円（2023年3月）	
経常利益	▲ 817百万円（2023年3月）	
親会社に帰属する当期純利益	▲ 1,075百万円（2023年3月）	
資本金	1,236百万円（2023年3月末日現在）	
傍楽仲間達（連結）	4,091名（2023年3月末日現在）	

当社事業について

自動車機器事業

点火コイル



オンボード チャージャー



【お客様】

クボタ 様 SUBARU 様 スズキ 様
ダイハツ工業 様 トヨタ自動車 様
豊田自動織機 様 本田技研工業 様
マツダ 様 三菱自動車 様
現代自動車 様 比亜迪汽車工業有限公司(BYD) 様
Ford Motor Company 様
General Motors Company 様
Renault S.A. 様 Stellantis N.V. 様

エネルギーソリューション事業

パワー コンディショナ



蓄電システム



V2H(Vehicle to Home) 対応システム



【お客様】

一条工務店 様 シャープ 様 長州産業 様
長府工産 様 ハンファジャパン 様 ユアサ商事 様

電子機器事業

インバータユニット・コントローラ



トランス・リアクター

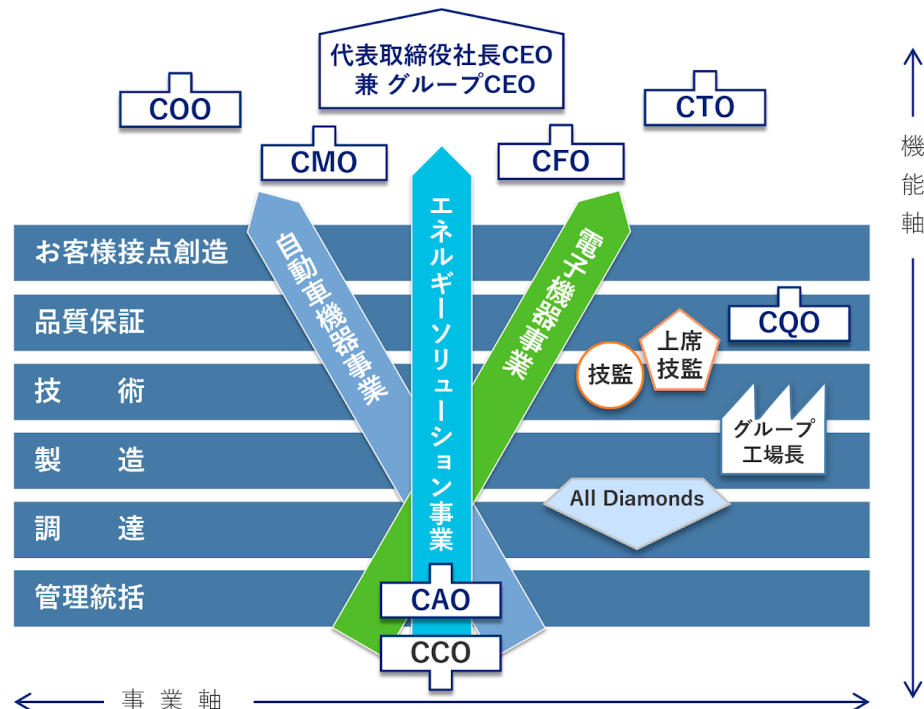


【お客様】

キャノン 様 コロナ 様 スミトニクス 様
ダイキン工業 様 東芝キヤリア 様 マックス 様
三菱電機 様

※お客様名：五十音順

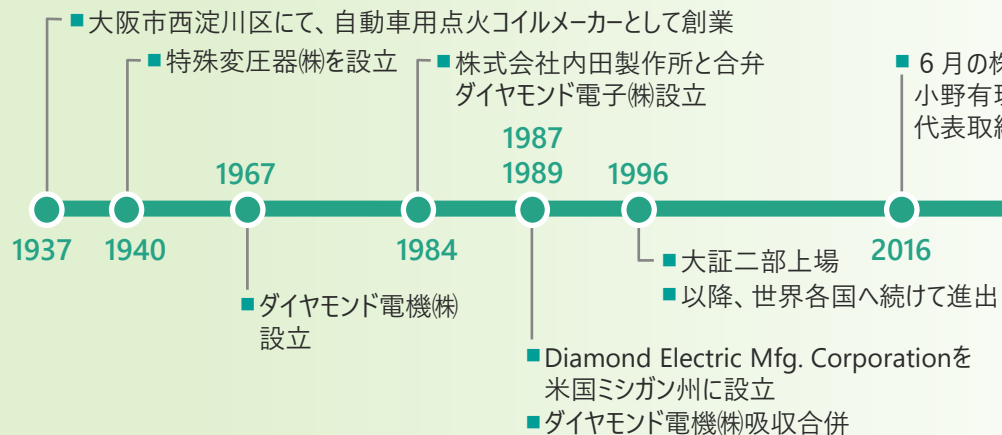
事業体制図



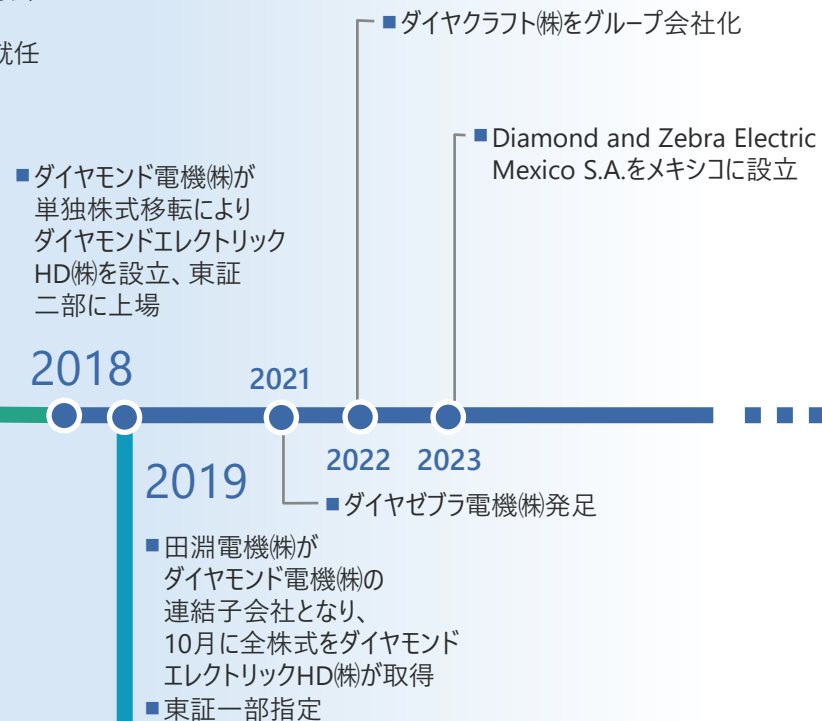
- 経営理念、社長三大方針、経営計画書を拠り所とするあり方追求
- 機能軸と事業軸の連携による挙社一致事業目的遂行
- 国籍、性別、年齢、身上不問の世界通年採用
- 退職者を招き入れるウエルカムバック積極実施(2016年夏から)
- 入社時、退職時の社長面談によるエンゲージメント向上

沿革

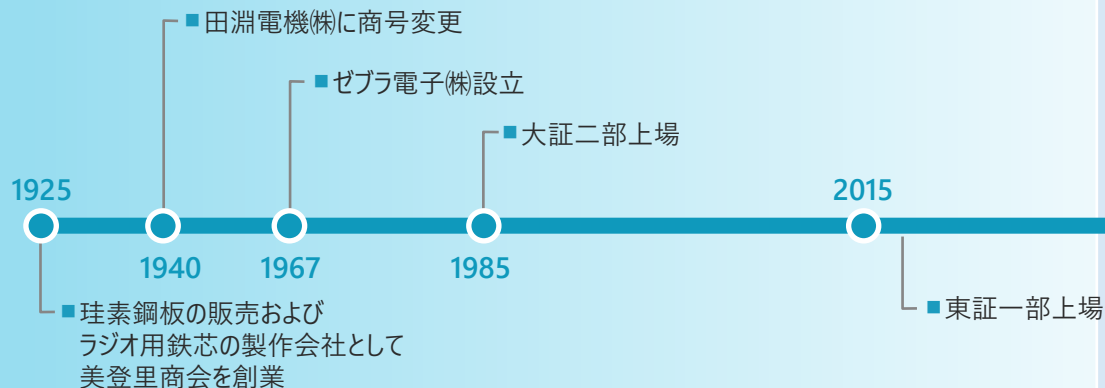
ダイヤモンド電機(株)



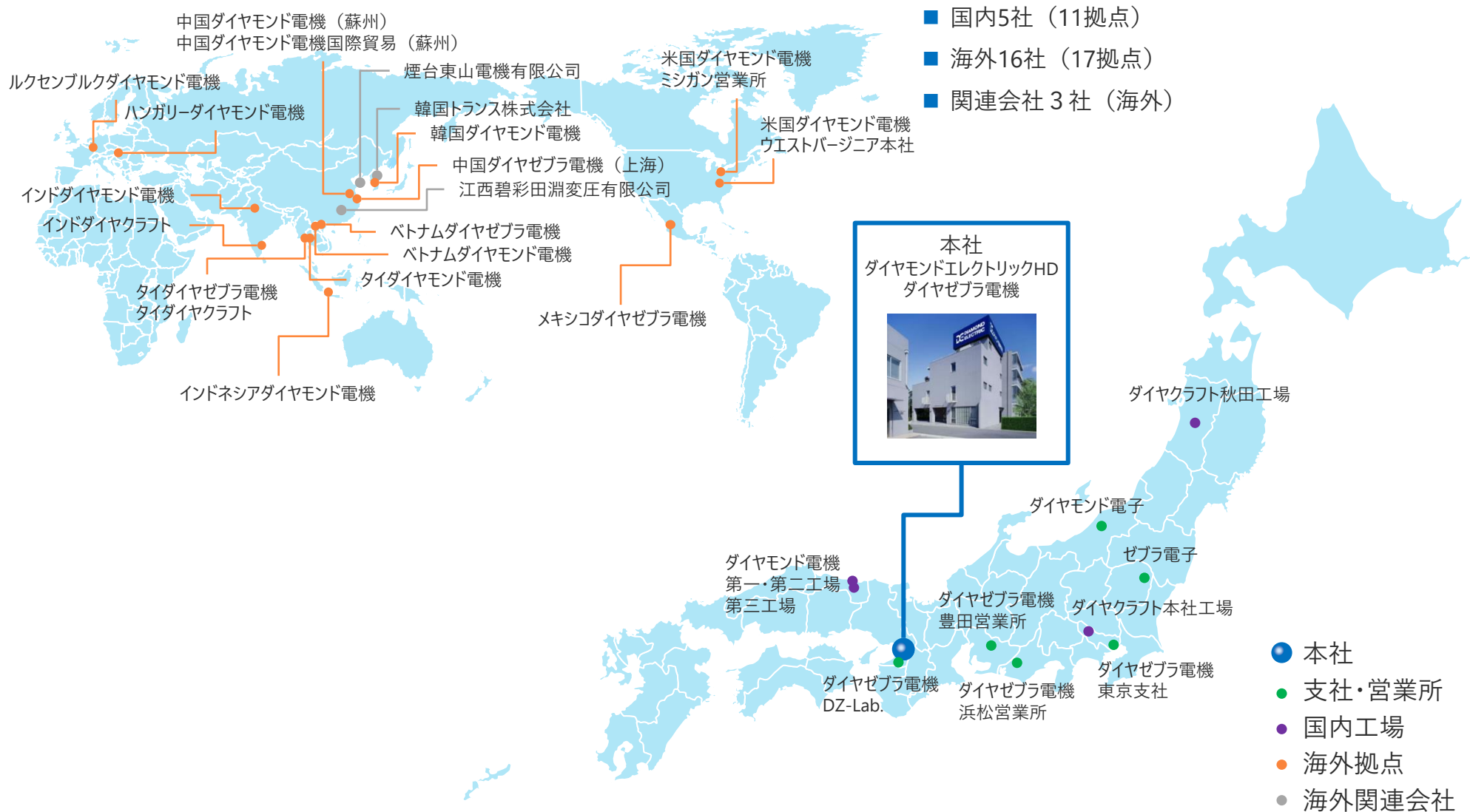
ダイヤモンドエレクトリックHD(株)



田淵電機(株)



事業ネットワーク



< 当資料及び見通しに関する注意事項 >

本資料は、当社の財務情報等の提供を目的としておりますが、
内容についてはいかなる保証を行うものではありません。

本資料に掲載しています情報の一部には、業績予想等の将来に関する記述が含まれております。
これらの記述は、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
実際の業績等の様々な要因により大きく異なる可能性があることをご留意願います。

< お問い合わせ >

下記E-mail宛にお問い合わせ内容をご記入の上、弊社に送信ください。

担当より、メールまたはお電話で回答させていただきます。

E-mail: hd-ir@dia-zbr.co.jp